



2

【ひろばの風】

聖カタリナ大学大学院看護学研究科開設

—喜び・希望・責任—

聖カタリナ大学大学院看護学研究科
研究科長予定者
西田 佳世



3

【Campus News】

- ・聖カタリナ大学大学院看護学研究科について文部科学大臣が設置認可
- ・聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部2021年度大学祭をオンライン開催
- ・「第4回スポーツ・レクリエーションフェスティバルin風早」を開催

他

4

【Campus News】

- ・「第38回愛媛県レクリエーション大会」が本学で開催
- ・「MOBURU+」のPR動画撮影で坊っちゃん劇場ミュージカル「ジョンマイラブ」出演者が来学
- ・硬式野球部員と教職員がビーチクリーン活動に参加



5

【Campus News】

- ・愛媛銀行とSDGsの推進に関する連携協力協定を締結・寄付講座「風早の塾」の開講



カタリナ ひろば

Vol.34
2022.2

聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部
www.catherine.ac.jp



Amor et Veritas
SCU

6

【Campus News】

- ・北条児童センターで「絵本でつながる地域の輪」を開催
- ・留学生スピーチコンテストで本学の留学生が「南海放送賞」を受賞
- ・令和3年度学長賞を授与

他

【ご寄付のお願い】
教育振興募金のご案内



7

【ようこそ就職課へ】

就職課長 鈴木 勝

8

【ESSAY】

「ラ・カンパネラ」は幻に…
聖カタリナ大学短期大学部保育学科
和泉 昌枝



9

【ゼミナールインタビュー】

人間健康福祉学部人間社会学科
田村 優佳ゼミ



10

【クラブ紹介】

弓道部

【教員著書紹介】

社会的養護研究

宮崎 正宇

(聖カタリナ大学短期大学部 助教・創英社)



聖カタリナ大学大学院看護学研究科開設 —喜び・希望・責任—

聖カタリナ大学大学院看護学研究科 西田 佳世
研究科長予定者



令和3年8月27日、文部科学大臣から「聖カタリナ大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）」設置の認可を受けました。いよいよ、令和4年4月1日には、聖カタリナ学園に初めての大学院が誕生いたします。喜びで胸がいっぱいになると同時にこれからの責任の重さに身の引き締まる思いです。現在、全国に看護系大学院は約200校、本学は県内3校目の看護系大学院としての役割を担うこととなります。

そこで、聖カタリナ学園の中で新たな一步を踏み出す聖カタリナ大学大学院看護学研究科について皆様にご紹介させていただきます。

本研究科の教育研究目的

本研究科は、建学の精神である「愛と真理」のもと、看護学が持つ専門性を深化させ、地域包括ケアの推進と構築を支えるための学術的基盤にもとづく高度で知的な要素を養うとともに研究的視点を持ちながら、地域に浸透して自身の専門性を活かしたケアを構築し、保健医療福祉分野で指導者・管理者・教育者として貢献できる高度専門職業人を育てることを目的としています。

教育課程編成の特色

本研究科では、身近な地域の特徴をふまえ、地域の課題への対応に合致した視点で、継続的、発展的に、地域包括ケアシステムの構築に寄与するために必要な科目を配置しました。また、喫緊の在宅療養者のニーズを探求し、看護師・保健師を中心とする看護専門職が、地域の人々に寄り添いながら、地域のニーズに応じた質の高い看護を学術的、研究的な視点で探求する能力を修得するために必要な科目も配置しています。

1. 目指す看護学の特徴：[療養支援看護学分野] と [特定実践支援看護学分野]

本研究科の特徴は、本県の地域包括ケアの推進を支えるために看護が担っている地域の特徴を踏まえた課題を2つの看護学分野の中から取り組むことにあります。1つは、臨床と在宅を繋ぐ中で生活する対象者とその家族の療養生活の支援（ケア）に焦点をあてた看護学を探求する [療養支援看護学分野]、もうひとつは、特定の健康課題がある患者や家族、子どもや保護者、妊産婦、地域住民の健康を支えることに焦点をあてた実践的な支援（ケア）を探求する看護学および保健医療福祉を担う専門職に特化した人材育成を担う [特定実践支援看護学分野] です。本研究科は、この2つの看護学分野の探求を通して、保健医療福祉における連携・協働を推進しながら、本県の地域包括ケアの課題に対応し、その中で役割を発揮できる研究能力と高度な看護実践能力を備えた人材を育成していきます。

2. 聖カタリナ大学らしさ —カタリナの精神—

本研究科の設置にあたり、最も大切に考えたことは、**聖カタリナ大学らしさ**を生かし、本研究科だからこそ叶う看護学の探求です。現在、多くの看護系大学院においては、

臨床現場のニーズに応え、特定の専門看護分野において高度な看護実践能力をもつ看護師養成（専門看護師）課程を有しています。しかし、本研究科においては、専門看護師課程は設置せず、学部教育における地域包括ケアを担う看護師・保健師の養成、地域に支えられ、地域に貢献するあたたかな看護職を養成していることを強みとし、その深化により、聖カタリナ大学だからこそ叶う看護学を創ることにしました。看護の原点回帰ともいえる地域包括ケアを軸に、地域の課題に真摯に取り組み、地域で生活する人々とともに歩み、地域に浸透して自身の専門性を活かしたケアを構築しながら、保健医療福祉分野で指導者・管理者・教育者として貢献できる高度専門職業人を育てる看護学が探求できることを目指したいと考えています。

これらの特徴がみえる科目として、共通科目では、建学の精神のもと、全人的看護に向けた人に寄りそうための基盤を養う「キリスト教人間学特論」、言語および非言語コミュニケーションを通して、対象者の行動変化を試みる援助の人間関係を学修する「カウンセリング特論」や、地域社会の特性・ニーズに応じた看護実践・構築にむけ、社会現象を理解・分析する力を修得する「医療社会学特論」を開講します。そして、地域の現状を分析し、地域の保健医療福祉においてそれぞれの専門職が担う役割や課題から、地域のニーズに応じた専門的なケアを探求する「地域医療保健特論」、地域包括ケアの推進、保健医療福祉サービスの偏在の解消、新たな看護方法の探求を目的とする「看護情報活用特論」は、地域の人々との繋がりの中で、本県の特持課題に向き合い、地域のニーズに応える看護を創る必要不可欠な知に位置づけて開講します。専門科目では、高齢多死社会を迎え、治療や療養の仕方の多様化、それに伴う看護の多様化をうまくマネジメントし、地域包括ケアの推進と構築を支えるための学術的基盤を築き、個々の生き方に寄り添いながら自身の専門性を活かした看護学の探求を行うために、各看護学の専門領域に関する科目に加え、「難病看護学特論」、「エンドオブライフケア特論」、「がん看護特論」、「看護マネジメント特論」を開講します。これらの科目は、聖カタリナ大学に誕生した大学院であるからこそ開講できる内容であり、それが本研究科の使命であると考えています。また、本学には看護学と繋がり深い社会学、心理学、健康スポーツ学、社会福祉学を専門とする教育研究の蓄積もあります。

本研究科は、これら聖カタリナ大学がもつ知を最大限に活かし、17名の専任教員と1名の兼任教員、5名の非常勤講師が連携・協働し、「チーム・カタリナ」として、令和4年4月1日、創めの一步を踏み出します。地域包括ケアを看護学の研究的視点をもって、地域の人々とともに歩み、推し進めることができる高度専門職業人の育成に力を注ぎ、地域の保健医療福祉における知の拠点としての役割を担ってまいります。

Campus News

聖カタリナ大学大学院看護学研究科について文部科学大臣が設置認可

8月27日(金)、聖カタリナ大学の大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)が文部科学大臣から設置の認可を受けました。

本大学院は、地域包括ケアの推進と構築を支えるための学術的基盤に基づく高度で知的な素養を養うとともに研究的視点を持ち、地域に浸透して自身の専門性を活かしたケアを構築しながら、保健医療福祉分野で指導者・管理者・教育者として貢献できる高度専門職業人を育てることを目的とします。また、本大学院は、松山市駅から徒歩1分に位置する聖カタリナ大学松山市駅キャンパスに開設されるとともに平日夜間、および土曜昼間の開講など社会人の方が学びやすい環境を整えています。



【大学院看護学研究科看護学専攻の概要】

- 取得学位：修士(看護学)
- 入学定員：5名(男女共学)
- 修業年限：2年(最長4年)
- 開設時期：令和4年4月1日
- 設置場所：聖カタリナ大学松山市駅キャンパス内(松山市永代町10番地1)

聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部2021年度大学祭をオンライン開催

聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部2021年度大学祭「進(すすむ)～可能性は無限大～」をオンライン開催しました。



FM愛媛様の協力のもと、北条・松山市駅の両キャンパスの学生が頑張って制作したコンテンツを配信しています。



皆様ぜひご視聴ください。

【配信コンテンツ】

大学祭ミサ、パイプオルガン演奏、北条キャンパス学科紹介、北条キャンパスレポート、看護学科紹介、松山市駅キャンパス(看護学科) ツアー、体育系クラブ紹介、文化系クラブ紹介、学生赤十字奉仕団(SRC)活動紹介、正しい手洗い・手指消毒、正しいマスクの付け方、ステージショー(読み聞かせ、手話コーラス、ダンスパフォーマンス、ライブ)、愛媛の男性アイドルグループ「唯我独尊」パフォーマンス



2021年度「大学祭パイプオルガン演奏会」の代替プログラム「オルガン・ワールドinカタリナ」の番組放送

新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、観客の皆さまの健康と安全を第一に考えて、2021年度の大学祭パイプオルガン演奏会は中止とさせていただきます。例年、聖カタリナホールはほぼ満席で、生のオルガンの響きを楽しみにしてくださいませる皆さまのご期待にそえず残念ですが、代替プログラムとしてパイプオルガン完工40周年記念番組「オルガン・ワールドinカタリナ」と題する番組を、愛媛CATVで放送しました。



「第4回スポーツ・レクリエーションフェスティバルin風早」を開催

11月6日(土)、「第4回スポーツ・レクリエーションフェスティバルin風早(主催：松山市文化・スポーツ振興財団、聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部)」が北条スポーツセンターで開催されました。

このイベントは松山市文化・スポーツ振興財団との連携協定の一環で開催される毎年恒例のイベントです。

新型コロナウイルスの影響でさまざまなイベントが中止・延期を余儀なくされていますが、今回のイベントでは企画の段階から感染予防対策に細心の注意を払ったうえで各イベントが開催されました。

当日、体育館では聖カタリナ大学杯「親子チャレンジ・ザ・ゲーム、親子でなかよしミニ運動会」、体力測定会&健康・運動相談コーナー、ファミリーフィットネス(ピラティス・エアロビ・ヨガ・自力整体等)が行われました。

親子チャレンジ・ザ・ゲームでは保育学科の学生が「チャレンジ・ザ・ゲーム普及審判員(日本レクリエーション協会公認)」として記録を判定しました。学生にとっても授業で学んだ内容を活かすことができ、レクリエーション・インストラクター資格としての役割を学ぶ良い機会となりました。

体力測定会&健康・運動相談コーナーでは健康スポーツ学科の教員・学生から健康に関する助言等があり、健康管理や自身の体力についてご理解をいただきました。

また、屋外ではグラウンド・ゴルフ大会が行われました。

今後も聖カタリナ大学と聖カタリナ大学短期大学部は松山市文化・スポーツ振興財団と協力し、皆様の健康増進・病気の予防を継続してサポートしていきます。



「第38回愛媛県レクリエーション大会」が本学で開催

11月7日(日)、「第38回愛媛県レクリエーション大会（主催：NPO法人愛媛県レクリエーション協会）」が本学の記念体育館ほか学内の施設、屋外を使って開催されました。

当日は、レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指している大学の健康スポーツ学科と短期大学部保育学科の学生がスタッフとして参加しました。

健康スポーツ学科の21名の学生は、「けん玉」や「ディスコン」「スポーツチャンバラ」などのいろいろなコーナーを補助しました。

保育学科の2年生17名は、当日参加してくれる子どもたちや保護者の皆さまとともに、楽しい時間を共有できるよう「ボールならベゲーム」「ペットボトルボーリング」「新聞紙ダーツ」の3つのコーナーを手作りし、子どもの遊びコーナーを実施しました。

学生は授業で学んだことを生かしつつ、体験を積みながら、レクリエーション・インストラクターとしての役割について学びを深めるとともに、愛媛県レクリエーション協会と連携しながら、学生の立場で地域に貢献することができました。



硬式野球部員と教職員がビーチクリーン活動に参加

11月27日(土)、硬式野球部員と教職員がビーチクリーン活動（主催：風早活性化協議会・NPO森からつづく道）に参加しました。

このイベントは環境問題にどう向き合ったらよいか考える機会にしておうと、今回初めて開催されたイベントです。

当日は、「北条発！減らそう！プラスチックごみ」をテーマとして、住民の方々と一緒に北条の海岸で清掃活動を行いました。茶色の液体が入ったペットボトル、発泡スチロール片、たばこの吸い殻などで、ゴミ袋15袋分（45リットル）のゴミが集まりました。

また、清掃活動終了後には北条公民館で学習会（テーマ：「プラスチックの何が問題？はじめよう、プラスチックフリー生活」講師：服部雄一郎さん）が開催されました。



「MOBURU+」のPR動画撮影で坊っちゃん劇場ミュージカル「ジョンマイラブ」出演者が来学

11月16日(火)、坊っちゃん劇場のミュージカル「ジョンマイラブ」にヒロイン「鉄」役で出演している濱 咲友菜さん（AKB48チーム8）と竹蔵役の湯本貴大さんと女中役の永妻 倫さんが来学し、web交流マガジン「MOBURU+（モブルプラス）」のPR動画の撮影が北条キャンパスで行われました。

このPR動画では、本学の外国人留学生（社会福祉学科 陳郁涵さん）と保育学科 竹田信恵教授がアルベルト・カルペンティール宗教画ギャラリーを案内しています。

YouTube動画を是非ご視聴ください。

※「MOBURU+」…愛媛台湾親善協会が松山市を拠点に西瀬戸内・四国地域と台湾の交流を促す目的で立ち上げたweb交流マガジン



学校法人聖カタリナ学園は2025年に創立100周年を迎えます。

創立100周年事業として坊っちゃん劇場のポスターに広告を掲出しており、ポスターは同劇場の入り口前に掲示しています。

同作品は、令和3年9月2日から令和4年8月中旬まで上演され、本学教員のロウ・リンダ教授が作品の英語考証で協力しています。

【聖カタリナ学園設置校一覧（1大学・1短大・3高校・5幼稚園）】

1. 聖カタリナ大学（北条キャンパス・松山市駅キャンパス）
2. 聖カタリナ大学短期大学部（北条キャンパス）
3. 聖カタリナ学園高等学校（松山市藤原町）
4. 京都聖カタリナ高等学校（京都府南丹市園部町）
5. 光ヶ丘女子高等学校（愛知県岡崎市大西町）
6. 聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園（松山市北条）
7. ロザリオ幼稚園（松山市室町）
8. 聖マリア幼稚園（新居浜市繁本町）
9. 聖家族幼稚園（京都府南丹市園部町）
10. 聖カタリナ幼稚園（愛知県岡崎市大西町）

学校法人聖カタリナ学園は、2025年に創立100周年を迎えます。



学校法人
聖カタリナ学園

聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部
聖カタリナ学園高等学校
京都聖カタリナ高等学校（京都）
光ヶ丘女子高等学校（愛知）
聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園
ロザリオ幼稚園
聖マリア幼稚園
聖家族幼稚園（京都）
聖カタリナ幼稚園（愛知）

愛媛銀行とSDGsの推進に関する連携協力協定を締結・寄付講座「風早の塾」の開催

12月2日(休)、松山市駅キャンパスで学校法人聖カタリナ学園が株式会社愛媛銀行とSDGsの推進に関する連携協力協定調印式を開催しました。

平成24年に聖カタリナ大学が愛媛銀行と連携協定を締結していますが、その連携の中にSDGsの推進に関する連携協力を行うことを追記し、学園の各設置校と幅広く連携することを目的として、聖カタリナ学園が協定書を交わすことといたしました。

調印式では、愛媛銀行頭取 西川 義教氏と学校法人聖カタリナ学園理事長 中田 婦美子が協定書を交わしました。

協定書では、愛媛銀行と聖カタリナ学園がSDGsの推進に関する継続的な連携を通じて、地域及び地域産業の振興や文化の発展等に貢献するため、研究・教育等の分野において、連携協力することを掲げており、今後、さまざまな活動に取り組む予定です。

具体的な取り組みとして、令和4年5月13日(金)より「SDGs: 持続可能な社会をめざして—まち・ひと・いのち—」をテーマとした産官学連携事業(愛媛銀行・松山市・聖カタリナ大学)の公開講座「風早の塾」を開催します。

一般の方、学生、生徒を対象とした公開講座ですので、是非ご参加ください。参加費無料。

第1部

NO	開講日時	講師名	講演テーマ
1	5/13(金) 14:40～ 16:10	西川 義教氏(愛媛銀行頭取) ホビノ・サンミゲル氏(聖カタリナ大学学長)	開講のあいさつ
		松山市企画戦略課SDGs推進担当課長	SDGsを原動力とした持続可能なまちづくり
2	5/27(金) 14:40～ 16:10	内田 東吾氏(イクレイ日本事務局長)	気候変動の基礎—世界中の自治体が対策を進める理由
3	6/3(金) 14:40～ 16:10	谷 義勝氏(榊谷グリーンエネルギー研究所代表取締役) 松山市防災危機管理課	①地域エネルギーで紡ぐ循環型世界都市 ②安全・安心で住み続けられる まちづくりひとづくり
4	6/17(金) 14:40～ 16:10	黒河 由佳氏(NPO森からつづく道事務局長) 松山市環境モデル都市推進課	①暮らしを支える生物多様性とSDGs ②できることから『ゼロカーボンアクション』～食品ロス削減・エシカル消費
5	6/24(金) 14:40～ 16:10	堀田 真奈氏(NPO法人ワークライフコラボ代表理事) 宮内 貞美氏(松山友の会)	①大学生のためのキャリアライフデザイン～自分をどう生きるか、デザインしよう!～ ②共に棲(す)み 共に語(か)たり 共に育(は)ぐくむ～子育てを温かい輪の中で～
6	7/8(金) 14:40～ 16:10	竹内 よし子氏(NPO法人えひめグローバルネットワーク代表理事) 大石 紗己氏(JICA四国愛媛県国際協力推進員)	①国際交流・国際協力とSDGs ②国際協力の現場から～草の根パートナーシップ～
7	7/22(金) 14:40～ 16:10	尾之内 童氏(光ヶ丘女子高等学校教諭)	未来を創る教育現場での実践

第2部

NO	開講日時	講師名	講演テーマ
8	10/14(金) 14:40～ 16:10	中川 雅智氏(聖カタリナ大学健康スポーツ学科助教)	よい睡眠でいつまでも元気な日々を
9	10/21(金) 14:40～ 16:10	青木 謙介氏(聖カタリナ大学健康スポーツ学科准教授)	幼児期における健康・体力づくり -コロナ禍における地域環境・施設を利用した取り組み-
10	11/4(金) 14:40～ 16:10	今城 遥氏(聖カタリナ大学健康スポーツ学科助教)	持続可能な共生社会をスポーツから考えよう -誰もが楽しめるアダプテッド・スポーツの魅力-
11	11/11(金) 14:40～ 16:10	大城 卓也氏(聖カタリナ大学健康スポーツ学科講師)	北条地区住民と聖カタリナ大学をスポーツで結ぼう
12	11/18(金) 14:40～ 16:10	齋藤 希望氏(聖カタリナ大学看護学科講師)	コミュニティの力で防災・減災 -地域のみなさんができること-
13	11/25(金) 14:40～ 16:10	三木 佳子氏(聖カタリナ大学看護学科教授)	日本のキズの手当と海外のキズの手当
14	12/2(金) 14:40～ 16:10	長尾 敏江氏(元松山日赤病院助産師・療養支援ナース)	いのちのバトンをつなぐ～地域と連携した切れ目のない支援～
15	12/9(金) 14:40～ 16:10	有家 佳紀氏(和ホスピタル医師)	元気で生きるための精神医学
		ホビノ・サンミゲル氏(聖カタリナ大学学長)	閉講のあいさつ

※講師等の都合により、講義順等が変更される場合があります。

※駐車場の台数に限りがございますのでご了承ください

定員：先着150名(参加無料。事前申込不要。)

※来場時はマスク着用、手指消毒、検温、人と人との間隔確保、氏名・連絡先等の記入にご協力をお願いします。なお、新型コロナウイルスの対策により入場者を制限させていただく場合があります。

※天候や新型コロナ感染症の感染再拡大等のために中止とさせていただきます場合があります。なお、中止の場合は、本学ホームページよりご案内させていただきます。

会場：聖カタリナ大学

北条キャンパス

聖カタリナホール

(松山市北条660番地)



※写真撮影の時のみマスクを外し無言で撮影しています。

クリスマス イルミネーションの点灯について

冬の風物詩となった聖カタリナ大学のイルミネーション。

12月1日(木)、北条キャンパスと松山市駅キャンパスにてイルミネーションの点灯を開始しました。カトリック大学らしい幻想的な光に彩られています。



北条児童センターで「絵本でつながる地域の輪」を開催

12月12日(日)、北条児童センターにて、「もちもちの木&雪ウサギ」によるイベント「絵本でつながる地域の輪」が行われました。このイベントは、本学サークル「読み聞かせクラブもちもちの木」の学生が、「コロナ禍で地域のつながりが希薄になっている今、何かできないか」と考え、「雪ウサギ」を結成、松山市民活動推進補助金を受け企画・実施しました。当日は、雪ウサギのメンバーによる民話を使ったペープサートや絵本の読み聞かせ、北条の宝物探し、クリスマスリースづくりを行い、児童館を訪れた親子や地域の方々々と和やかに交流しました。「北条の宝物を探そう！」のコーナーでは、北条地区まちづくり協議会の方々から、北条地区の行事や素敵な場所を紹介していただくことができ、地域の輪が広がりました。



留学生日本語スピーチコンテストで本学の留学生が「南海放送賞」を受賞

12月19日(日)、愛媛県留学生等交流推進会議主催の「第18回留学生日本語スピーチコンテストin愛媛2021」が南海放送本町会館で開催されました。

本学からは台湾からの留学生（社会福祉学科 陳郁涵さん）が参加しました。

審査の結果、「南海放送賞」を受賞しました。

なお、当日の様子はYouTubeで視聴可能です。



令和3年度学長賞を授与

12月20日(月)、スポーツ・ボランティア・文化活動で活躍した学生及び団体に対する学長賞の授与が、学内クリスマスにおいて行われました。今年の実賞者は以下の皆さんです。

【スポーツ表彰】

- 弓道 瀧水 幸虹さん（健康スポーツ学科）
- ボウリング 泉宗 心音さん（健康スポーツ学科）
- 新体操 芳之内 乃亜さん（健康スポーツ学科）
- なぎなた 八木 悠真さん（人間社会学科）

【文化活動表彰】

- 大学祭ミサ聖祭における聖歌隊（団体表彰）
- 2021年度大学祭実行委員会（団体表彰）
- 介護用繊維製品の開発プロジェクトチーム（団体表彰）
- 読み聞かせクラブ「もちもちの木」（団体表彰）



ご寄付のお願い【教育振興募金のご案内】

学校法人聖カタリナ学園は、2025年に創立100周年を迎えます。

聖カタリナ学園では聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部の教育事業を永続的に発展させるため、また、教育環境の維持、充実を図るための支援として、皆様からの募金のご支援を受け付けております。趣旨をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ・お申し込み先】

学校法人聖カタリナ学園 法人本部事務局 〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地
TEL 089-993-1300 FAX 089-992-5616



ようこそ就職課へ

就職課長 鈴木 勝

就職支援からキャリア形成支援へ、大学におけるキャリア形成支援は大学教育の根幹であり、常に教育の質向上に努めなければなりません。大学は教育課程を通じて、それぞれの個性・特色や学問分野に応じた教育を行うほか、正課外の学生支援を通じて職業意識の形成等の支援を行っています。これらは、単に卒業時点の就職を目指すものではなく、生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指し、豊かな人間形成と人生設計に資することが目的です。

つまり、キャリア教育とは「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」（中央教育審議会）と言えます。

学生を良き社会人として成長させるためには、どうやって企業を絞り込むかという方法論ではなく、まずは健全な職業観の育成が第一であり、自分が社会人になるという自覚をしっかり持たせることが重要です。学生も社会に出るための準備期間として4年間をどう過ごすのか、抽象的な目標に留まらず、自分でデータやエビデンスに基づくキャリア計画を立て実効性を高める必要があります。

成長度合いを測定する方法として、「学修成果の可視化」がありますが、学修成果の可視化はそれ自体が目的ではなく、今後行うべきことをデータで科学的に分析できて判断するための取り組みです。可視化本来の主人公は学生であり、結果を振り返りどう改善すべきか自己評価やポートフォリオの作成により、学生自らがエビデンスに基づき身に付けた力を自分の言葉で語れるようになることが重要です。

教育の質向上のため、大学は可視化された結果を教育改善に使う立場であり、卒業時の学生がディプロマポリシーをどれだけ達成できているか、組織の集団として達成度を示すなど情報開示する必要があります。調査が主たる目的にならないように注意し、正課の評価指標となるルーブリックを設定して終わりではなく、学生が常に学修成果を意識する存在であるべきで、未達成ならばPDCAを何度も回して改善し、学生の主体的な学びにつなげる必要があります。

Society5.0時代に求められる人材に必要な能力は、情報活用能力・ICT活用能力で超IT社会を生きぬく力があります。そのために大学教育は、論理的思考力・規範的判断力、課題発見・解決力等の能力・リテラシーが中心に据えられるべきです。

就職環境が新卒一括採用から通年採用へ変化する流れの中では、どの大学を出たかよりも大学入学時から学生がどのように成長したのか、4年間の学修成果が正しく評価される時代が来ています。専門スキルを重視した雇用の増加が見込まれます。例えばAI人材、データサイエンティスト、商品開発担当者、マーケティング人材などです。

きめ細かい就職支援をするためには、就活の出足が鈍い学生、停滞している学生一人ひとりの進行度に応じた丁寧な指導を行なう必要がありますが、いわゆる「電子カルテシステム」の導入が不可欠であり、学修成果、所属クラブ、課外授業歴など学生に関するあらゆる情報がデータベース化し、学生状況を教職員が的確に把握して徹底的なサポートをすることで、実効性の高いキャリア形成支援が実現できると考えます。

また、アクティブラーニングを推進していけば、学生の発見力や課題解決力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、社会人基礎力の能力向上などの教育的効果が期待できます。しかしながら、全ての学生が理解し、身に付けるまで徹底しているのか、イベントを開催するだけが目的の表面的なキャリア教育になっていないか、その学習プロセスや学習の質に関心をはらい、細やかに成長を促す指導をすることが肝要です。

就職課は就職成果としてディプロマポリシーを実現する学生が輩出できているか、学生が学校に誇りを持ち社会で活躍しているか、社会から評価されているか、カタリナ大学のブランド力を高めて入学生が増加する好循環とするために、実効性のある体系的なキャリア教育に向けて今後も尽力してまいります。



「ラ・カンパネラ」は幻に…

聖カタリナ大学短期大学部保育学科 和泉 昌枝

私、2021年度から聖カタリナ大学短期大学部に参りました、和泉昌枝と申します。本学では音楽表現を担当させて頂いております。

突然ですが、皆さん、フランツ・リスト作曲の「ラ・カンパネラ」と言う曲をご存じでしょうか。この曲は、私が音楽の道を志すきっかけとなった曲です。

小学生の頃、当時はまだカセットテープの時代でしたが、母に買ってもらったカセットテープにこの曲が収録されていました。有名なクラシック曲が何曲か収録されたカセットテープだと記憶しています。当時、音楽にあまり興味がなく、なんとなく聴いていたわけですが、なぜかこの曲は気に入ったようです。何度も繰り返し聴いていたのを覚えています。ピアノは習っていたものの、あまり褒められたような生徒ではなく、「周りも習っているから…」くらいの気持ちで過ごしておりましたが、「この曲を弾きたい！」と言う目標を持ったことで、ピアノに向き合うようになりました。しかし、弾けば弾くほど、自分のテクニックでは到底弾けることのない曲であると実感し、夢は遠のいていくばかりです。ピアノを習っている周りの友人に比べて、私の進度は遅れていましたので中学時代は必死で基礎をやり直し、高校時代は周りに追いつくために一晩で何曲も譜読み、暗譜をしました。怒涛の高校時代を過ごし、何とか音楽大学に進学したわけですが、ここでもやはり周りの実力に圧倒される日々です。大学でもピアノや声楽など実技の準備は相変わらず大変でしたが、人間関係に恵まれ、とても充実した学生生活を送ることができました。

大学4年生の時、卒業試験で何を演奏するか、先生と相談した際、思い切って『ラ・カンパネラ』を弾くのが私の夢だったのです』と伝えたところ、先生に承諾して頂き、演奏することが出来ました。納得のいく演奏ではありませんでした。この曲を弾きたい！』という夢は実現できたわけです。

夢だった曲を演奏できたことで、わずかながら満足感を得た私は、大学時代、ピアノと同じように頑張った声楽に興味を持ち、卒業後はオペラ研究所に進みました。この研究所で、私はとても尊敬するピアニストに出会いました。オペラの公演は、本来オーケストラの演奏ですが、研究所ではピアノ伴奏でオペラ全幕を上演します。私がこの先生

に初めてお会いしたのは、研究生となった最初の年です。先輩方のオペラ公演のお手伝いは研究生が行いますが、私の担当はピアニストの譜めくりでした。休憩を挟んで、全幕終了に3時間はかかりますので、初めて目にしたオペラの楽譜を約3時間、ピアニストの邪魔にならないように追いつけることは非常に緊張し、そして疲れたのを覚えています。しかし、それと同時に「すごい！」と感動し、ドキドキしたことも忘れられません。

それ以来、この研究所での譜めくり担当にすっかり定着した私。先生の所へピアノレッスンにも行かせて頂くようになり、レッスンの日は、ピアノを弾くのと一緒くらいおしゃべりもし、沢山のお話を聞くことができました。

研究所での日々は、歌う、弾く、以外にも色々な技術が身に付きました。字幕・小道具・衣装・アナウンス・受付など裏方のお仕事もさせて頂いたおかげで、小規模ですが公演に関わる人の動きを知ることができました。あれもこれも…と、どれも中途半端なようですが、この中途半端に色々体験できたことが、現在、指導をしていく上で生かされていると感じています。

様々な事情によりしばらく音楽から離れた生活をしていましたが、結局のところ再び音楽を始め、大学院に進学し、現在に至ります。大学院進学に際し、10数年ぶりに弾き始めたピアノの腕は、散々なもので、思うように指は動かず、感覚は全く戻りません。まさに『ラ・カンパネラ』は幻に…。あの頃のように弾ける気がしない…。大学院最後のピアノ演奏曲はラフマニノフ作曲の『鐘』という曲でした。リストの『ラ・カンパネラ』これもイタリア語で『鐘』という意味があります。偶然ですが修了はいつも『鐘』なのか…。と、このエッセイを書くにあたり、ふと思った次第です。

本学で指導する際にも、ピアノのレッスン生の中には「これが弾けるようになりたい！」と、難しい曲を持ってくる学生がいます。難しくても学生の「弾きたい！」が叶えられるようお手伝いしたいと、残り少ない2年生との授業をしながら思う日々です。努力したこと、達成感を味わったことは貴重な経験です。ありきたりな言葉ですが「やればできる！」そんな思いをもって卒業し、今後の人生に生かされることを願って、指導していきたいと思っております。

ゼミナールインタビュー

人間健康福祉学部人間社会学科

田村 優佳ゼミ

ゼミのテーマを教えてください。

田村優佳ゼミでは、社会生活を潤滑に行える人格形成を目指すことをテーマに掲げ、心理学に関する全般的な内容を扱っています。特に、「心理学」の中の「臨床心理学」については重点的に取り入れています。これまでの卒業生による研究題目を一部紹介します。

「大学生における自己変容に対する志向性から見た強迫傾向とボディイメージ」

「高校時代のボランティア活動に動機づける要因と心理的効果」

「大学生のストレス反応と自己変容の捉え方との関連」

「不登校体験者の就学を支える心理社会的プロセス」

「大学生のセルフ・モニタリングと自己肯定意識との関連」

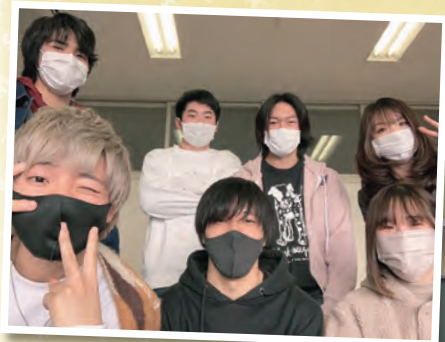
「大学生の自尊感情と社交不安傾向の関連について」

等です。

また、国家資格である公認心理師を目指す学生には、聖カタリナ大学では愛媛大学と連携協力の覚書を交わしているため、入試を経て合格されると愛媛大学大学院教育学研究科への進学も可能となっているため、希望者には受験や研究計画への指導を積極的に行っています。

ゼミの特徴を教えてください。

心理学は心の科学であり、データに基づいて理論を組み立てていきます。一方、臨床では目の前の個人の語りにも寄り添うことが求められます。あえて理論にこだわらずケース・バイ・ケースの柔軟性や対応の広がり、多少なりとも得られるようにしていきたいと考えています。アットホームで自由でのびのびとした環境の中でそれぞれが興味、関心をもったことに取り組んでいけるようにしていきたいです。



ゼミのスタイルを教えてください。

私のゼミでは、学生が主体的に学習に取り組めるような環境を心がけています。学生各々が興味・関心のあるテーマを定めて、各自が積極的に学習活動（資料収集、アンケート調査活動、統計ソフトによるデータ分析等）をし、それらを資料にまとめてゼミ生の前で発表を行う時間を設けております。そうすることにより、学生の文献講読能力、またゼミ生同士のコミュニケーションスキルの向上に重要な役割を果たすことと考えております。

昨今の世の中は多くの人々が何らかのストレスを抱えて生きているのではないかと考えます。このような社会で本来持っている能力を十分に発揮できていない若者（学生）が増えていることが残念でなりません。ゼミ活動において、やれば何とかできる感覚“自己効力感”や自分を認められる感覚“自己肯定感”を得ることで、学生それぞれが自分の強みを見つけ、社会に出たときそれぞれがそれぞれの環境で知識やスキルを最大限に発揮してくれることをのぞみます。

田村 優佳ゼミは **こんなゼミ**

田村ゼミは、それぞれが興味を持った分野をとことん学ぶことができるゼミです。各々が学びたいテーマに合った論文を読み、学びを深めていくことができます。また、ゼミで互いに読んできた論文を発表し合うことで、新たな学びや気づきを得ることができました。卒業研究では、バウムテストといった投影法の解釈でも先生が的確にアドバイスをくださるので安心して取り組むことができます。ゼミの雰囲気も和やかですので、自分のペースで研究を進めることができます。

人間社会学科4年 西岡 夏希

クラブ紹介 弓道部



私たち弓道部は、保育学科棟の奥にある弓道場で週に2日程度活動しています。部員が弓道場に集まるととてもにぎやかですが、弓を持つとみんな真剣な顔つきになり集中して矢を放っています。

今年度は例年に比べて積極的に活動を行ったため、弓道部にとって“初”となることがとても多い年でした。まず、新型コロナウイルスの影響で、初めてオンラインで大会の予選を行ったり練習試合の運営を行ったりしました。慣れない形式に戸惑うことも多くありましたが、学生弓道連盟の方々や他大学の方々のサポートにより、スムーズに終えることができました。

8月には全日本学生弓道選手権大会に初めて出場し、遠的の部で初優勝を果たしました。“初”出場での“初”

優勝となり、本学弓道部の名を全国に轟かせることができました。10月に開催された中四国学生弓道選手権大会では、女子団体が初めて決勝リーグに進出し、決勝リーグでは3勝をあげることができました。個人戦でも過去最多の3名が決勝に進出しました。また、昇段審査も積極的に受審しています。

このように、積極的に活動を行ったことで初めての経験を多くすることができ、私たち弓道部にとってとても充実した1年になりました。これからも、周りで支えてくださっている方々への感謝の気持ちを忘れず、来年度はより充実した1年になるように、練習に励んでいきたいです。応援の程、何卒よろしくお祈りします。

弓道部 主将 瀧水 幸虹



教員著書紹介

社会的養護研究

宮崎 正宇
(聖カタリナ大学短期大学部
助教)
出版社名/創英社



『社会的養護研究』は、全国児童養護問題研究会（以下、養問研）が刊行する研究誌です。養問研とは、乳児院・児童養護施設等の施設職員や里親、児童養護問題に関心のある学生、研究者などが集まって1972年に発足した会です。養問研では、子ども・職員の権利保障を大切にしながら、実践と研究を推進しています。今回、創刊号として、特集1「小規模かつ地域分散化

と子ども・職員集団づくり」、特集2「社会的養護における新型コロナウイルスと社会的養護における感染症対策」、小特集「社会的養育推進計画の進捗状況と課題」を取り上げています。その他、現場実践レポート、研究論文、エッセイ、当事者の語り、本の紹介など、豊富な内容となっています。

本教員は、「児童養護施設における子ども集団づくり」の論文を執筆しました。近年、大きな課題となっている児童養護施設における高年齢児童に対する自立支援について整理し、「子ども集団づくり」の在り様を明らかにしました。

本誌は、社会的養護関係者だけでなく、福祉（保育）の仕事を目指す学生においても、社会的養護の実際について具体的に分かりやすく学べる内容となっています。本誌が、学生にとって、社会的養護に興味・関心が向くきっかけとなれば望外の喜びです。

大学
ドローン動画



大学
公式LINE



※LINEのQRコード読み取り画面でスキャンするとLINEの友達に追加されます。

大学公式
Instagram



受験希望
の方



大学HP



保育学科
ブログ



学校法人 聖カタリナ学園

聖カタリナ大学

カタリナひろば vol.34

編集・発行

広報委員会

〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地

TEL (089) 993-0702 (代)

kouhou@catherine.ac.jp